

# よこて ネット



## 「特別支援学校への勤務を通して」

教頭 煙山 正信

令和3年4月、本校での勤務が始まりました。それまで私は小学校での勤務が主で、ほぼほぼ特別支援学校はもとより特別支援教育そのものへの啓蒙も理解も不足していました。さて、そんな自分が赴任した2年間を振り返って…。特別支援学校での勤務が長い先生方には当たり前の内容かもしれませんが、私にはたくさんの発見や気づきがありました。三つ例を紹介します。

### 1 保護者や関係機関との連携

玄関先で、児童生徒を迎える学級担任と保護者の方が、家庭や学校での様子について詳細に情報交換を行い、その日の児童生徒の成長などを語り、喜ぶ姿が毎日のように見られます。また、それだけで伝えきれない内容は、連絡帳や時に電話、また年3回行われる保護者面談などで伝えます。

また、将来の自立に向けて、小・中・高と教育課程が検討され、様々な企業や地域の人達と結びつき、関わりを深めています。保護者や地域の皆さんとの共通理解や実践の大切さを再認識しました。

### 2 障害や個別の教育的ニーズに応じた手立ての工夫

本校は、令和3～4年度、秋田県教育委員会指定「e-AKITA 学び推進プラン事業」ICT活用推進モデル校として委嘱を受け、ICTの効果的活用について「単元全体を見通す工夫」「学習の意味や意義を理解する工夫」「ねらい、めあて、まとめ、振り返りの在り方の工夫」と三つの視点で授業改善に取り組んできました。特別支援学校でのICT…私には全くイメージがわからず、どういった実践を重ねていくのかと興味津々でした。研究が進んでいくにつれて、様々な実践が重ねられていきました（詳細は、本校HPで公開中です）。そこには、ICTを適切に活用しながら、生き生きと活動に取り組む児童生徒の姿がありました。見通しをもつことの大切さ、学習の意味や意義の理解、秋田型授業構築のイメージなど小学校でも研修を行ってきましたが、実は特別支援学校でも求めるものには大差なく、むしろ、教師にとってのICT活用への必要感が高まり、成果も大きく実感できたように感じます。

### 3 自立活動の充実

様々な研修をとおして、「自立活動」を考えます。年数回行われる自立活動研修会、個々の課題に応じて計画された自立活動の時間、日常生活で意識される自立活動の視点…。「できない」には、その理由が必ずあります。それぞれの「個」に焦点を当て、それを突き詰めていくことが、児童生徒の個別のニーズに応えることにつながります。たとえ小さく見えるその一歩も、やがては大きな一歩へとつながっていくことがいくつかの機会に実感されました。

特別支援学校への勤務が始まった2年前の当時は特別支援教育へ、「知らないこと」での無意識の壁があった自分。しかし、例として挙げた上記三つ以外でも求められるものには変わらないことに今更ながらに気が付きました。私が長く勤務した小学校でも、特別支援学校でも、そこには変わらない児童生徒の元気な姿と笑顔があり、充実した学校生活が営まれています。





## 本校の ICT 活用の取組について Ver.4

本校のICT活用推進の取組においては、「児童生徒の育てたい力を意識し、活用の意図を明確にすること」を重視してきました。

今回紹介する二つの実践は、ICT活用の意図を明確にすることで効果的な指導につながった事例です。

### 入力方法の選択で書字の負担を軽減

学習支援アプリ「ロイロノートスクール」

高等部1年の職業科では、後期実習での様子（動画）を電子黒板に映し出して提示し、友達の良いところを見つけて評価し合う学習を行いました。

プリント記入では、誤字脱字の修正などに時間が取られていました。そのため、様々な入力方法が選択できる学習支援アプリ「ロイロノートスクール」を使用しました。書字の負担を減らすことができ、友達の良いところを考えることに集中でき、意見を共有することができました。

キーボードで入力したり、例文を引用したりすることで、記入の時間が短縮されました。また、予測変換機能を使い、漢字で入力することに自信をもつことができた生徒もいました。書字の負担が減ったことで、友達の学習の様子に対して、自信をもって自分の意見を表現することができました。



生徒全員の意見を一つの画面に集約して表示して、自分の意見との比較をしました。

### 短時間で表やグラフの作成が可能

表計算アプリ「Numbers」

中学部1年の数学科では、気温のデータを整理し、表やグラフ（折れ線グラフ、棒グラフ）で表したり、特徴を読み取ったりする学習を行いました。

方眼紙や目盛りが細かいグラフの作成に苦手意識がある生徒がグラフ作成に意欲的に取り組んだり、データの読み取りを行う時間を確保したりするために、簡単にグラフを作成することができる表計算アプリ「Numbers」を使用しました。

生徒が自分で簡単にグラフを作成できたことで、達成感を得ることができました。また、読み取りに十分に時間を取ることでグラフを見て、簡単な特徴を捉えて発表することができました。生活単元学習で各県の米の生産量をグラフで発表するなど他の場面でも学んだことを活用した生徒もいました。



グラフを簡単に作成できるため、読み取りの時間をたっぷり確保できました。

### お詫びと訂正

「よこてネット第5号」に掲載した本校のホームページアドレスに誤りがありました。次のように訂正いたします。ご迷惑をおかけし大変申し訳ありませんでした。

【誤】 <http://www.yokote-s@akita-pref.ed.jp>

【正】 <http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp>



今年度もセンター的機能をご活用いただきありがとうございました。次年度もよろしくお願いいたします。

